

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370328

研究課題名(和文)トシオ・モリ文学の全体像の構築とジャパニーズ・アメリカニズム研究の確立

研究課題名(英文)An Attempt to Construct the Overview of Toshio Mori's Fiction and Establish the Study of Japanese-Americanism

研究代表者

田中 久男(TANAKA, Hisao)

広島大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：30039135

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：カリフォルニア州オークランド出身のトシオ・モリ(1910-80)文学の全体像を構築するために、まず、第二次世界大戦中のトパズ強制収容所体験を基に描いた死後出版の中編小説「ムラタ兄弟」や関連の短編を読み解くことによって、処女作『カリフォルニア州ヨコハマ町』(1949)等で出来上がった穏やかな作風の作家という偏ったイメージを修正した。次に、アメリカニズムを民主主義や自由等の国家的な価値観を標榜するナショナリズムの現れ方として容認した上で、多様性を認め合うポストモダニズムの時代にふさわしいエスニシティ重視の対抗的な文学的ヴィジョンとして、ジャパニーズ・アメリカニズムを確立する道筋を提唱した。

研究成果の概要(英文)：The present study has attempted, first, to revise the tenacious, biased image of Toshio Mori (1910-1980) born and raised in Oakland and its neighborhood, California, as an optimistic and mild writer who is eager to see the smiling aspects of humanity and reluctant to describe its darker side: focusing not only on his "The Brothers Murata," a novelette which was written around 1944 when he was interned at the Topaz concentration camp in Utah during World War II, but also on his short stories treating Japanese Americans' psychological conflicts around that crucial time, the present study seeks to present the unbiased overview of Mori's fiction.

Next, the present researcher has tried to establish the study of a literary vision of Japanese-Americanism as against Americanism, which can be recognized as a natural expression of nationalism based on such ideas as democracy, freedom, or equality on which American society as a nation places supreme priority.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：トシオ・モリ 日系二世作家 ジャパニーズ・アメリカニズム 日系アメリカ文学 アジア系アメリカ文学 トパズ強制収容所 全米日系市民協会 「ムラタ兄弟」

1. 研究開始当初の背景

本科学研究費受託研究者は、平成 21 年～平成 24 年(2009-2012)にかけて、基盤研究(C)の課題として、「アメリカ文学における人種と地域から見た階級表象の領域横断的研究」というテーマを掲げて、アメリカ合衆国の東部、南部、中西部、西部という伝統的な 4 地域を代表する作家の著作の中に、人種的(場合によってジェンダーの視点も包摂)にも多様なアメリカ社会を映し出す文学作品を博搜し、それらを階級表象という視点から読解することを試みた。

この研究課題の中で西部を対象としたときに、ジョン・スタインベックやアルメニア系作家ウィリアム・サロイアンと同時に、サンフランシスコを舞台にしたフランク・ノリスの『マクティーク』(1899)を考察したが、詩人ヨネ=ノグチとして英米でも活躍した野口米次郎と親交のあったノリスの作品においてすら、日本人移民の姿が不可視になっている不自然さが気になった。同様に、マイノリティとして日系人と同じように抑圧されてきた民族集団の典型である中国系の代表作家マキシーン・ホン・キングストンの『チャイナタウンの女武者』や『チャイナ・メン』の物語舞台は、カリフォルニア州オークランド近くのストックトンであるが、同じように、日本人移民の姿が見えないという状況になっている。

そこで 20 世紀初期の日系アメリカ人の文学的表象を探求する必要性を痛感し、アメリカ社会で人種的、階層的に周縁化されていた彼らやその共同体が、文学作品に描かれている様相を探索した。その結果、オークランド出身のトシオ・モリ(1910-1980)という半ば埋もれた作家を再評価する必要性を認識するに至った。なぜなら彼は、20 世紀初頭から西海岸を中心に席卷した黄禍論症候群や排日運動、さらには日本軍のパール・ハーバー襲撃による強制収容という、ア

メリカ社会が時に見せる醜悪な一面の激発に遭遇しながらも、極めて冷静に日系市民のアメリカ社会での生活や共同体の原風景をつぶさに観察して描き、移民一世と第二次世界大戦後生まれの三世とをつなぐ要のような存在として、歴史の大きなうねりの目撃者ともいべき貴重な創作活動をした二世作家だったからである。

2. 研究の目的

以上が研究開始当初の背景で、本科学研究費受託研究者は、まず、トシオ・モリの未発表作品を含めた創作活動の全容を把握するために、彼の全作品(現物が不可能な場合には複製)を収集して著作一覧と年譜を作成し、研究を遂行するための基礎固めを行うことを目指した。同時に、それら一次資料の綿密な読解を通して、なぜ彼が日系アメリカ文学の原点として重要なのかを考察し、その成果をモリ文学の正当な再評価につなげることを目標とした。

次に、時代の証人としてのモリの作家活動を、ジャパニーズ・アメリカニズムという包括的な概念のもとに意味づけ、それを日系アメリカ人として追究すべき生活様式として提案することを目指した。すなわち、アメリカニズムを民主主義や自由、平等という合衆国の統一国家的な価値観を標榜するナショナリズムの現れ方として容認した上で、多様性を認めながら、個々の民族的アイデンティティを尊重し合うポストモダニズムの時代にふさわしいエスニシティ重視の対抗的な文学的ヴィジョンとして、日本人という民族的ルーツを源泉とする文化的遺産や記憶を大切に継承しながら、正当なアメリカ市民として、アメリカ国家のナショナリズム宣揚への参加姿勢を打ち出すジャパニーズ・アメリカニズム(日系人として確立すべきアメリカ的生活様式)を提唱することを、研究の目的のもう一つの柱とした。

3. 研究の方法

トシオ・モリには、短編集『カリフォルニア州ヨコハマ町』(*Yokohama, California*, 1949)、長編小説『広島から来た女』(*Woman from Hiroshima*, 1978)、二作目の短編集『ショーヴィニストその他の短篇』(*The Chauvinist and Other Stories*, 1979)、および、死後出版の『終わらざるメッセージ

トシオ・モリ選集』(*Unfinished Message: Selected Works of Toshio Mori*, 2000) の4作しか出版作品はないが、未発表の作品を数篇残していることは、彼のインタビューでの発言や、サロイアン宛の書簡からも窺い知ることができる。具体的には、1943年8月までに、強制収容という過酷な状況下で、『子供たちよ 明日と言う日は きっと来ますよ』(*Tomorrow is Coming, Children*) と、『これら寄る辺なき民を送りたまえ』(*Send These, the Homeless*) という2篇の長編小説を仕上げたのである。しかし残念なことに、著作の管理者である作者の息子スティーヴ・Y・モリ(写真ジャーナリスト; 1951-) の側では、父が遺した未発表原稿は倉庫に保管されたままの未整理の状態なので、現物は見せることができないという強い個人的な事情があり、それゆえ、遺されていると推定される数篇の長編小説のタイプ原稿の実態調査は断念せざるを得なかった。

一方、伝記的な面では、モリの父ヒデキチがハワイに渡り、さらにそこからサンフランシスコに上陸した年や、その後モリの母ヨシが夫と合流した年、あるいは作家の二人の兄マサオとタダシが、オークランドにいる両親と合流するためにアメリカに渡った年など、トシオ・モリの正確な作家像を構築するための家族に関する正確な情報が、十分整っていないという学問的に不備な状態があった。

そこでまず、研究初年度の平成25年度には、モリの創作活動の全容を把握するために、

カリフォルニア大学(バークレー校とロサンゼルス校)とユタ大学の図書館で、各種雑誌や新聞の原典に当たり、現時点でモリが発表したと確認できているほぼ全作品の複写を収集し、それらをクロノロジカルに整理した作品一覧表を作成して、研究のための一次資料を整備した。そして日系移民の一世や二世の共同体での生活や、彼らが置かれた時代の表情を子細に描写しているそれらの作品、および関連する批評研究を読み込み、論文執筆(そして近い将来に図書として公刊するため)の下準備を進めた。

さらに、絶版状態だった『カリフォルニア州ヨコハマ町』、『広島から来た女』、および『ショーヴィニストその他の短篇』の原典3作を、オークランドの古書店で獲得した。それと同時に、息子のスティーヴとオークランドで会見し、彼から伝記的な情報を取得して、作家トシオ・モリの年譜作りに役立てた。それでも不明な伝記的背景については、ハワイ大学図書館所蔵の新聞、広島県立図書館所蔵の初期在北米日本人の記録として編纂された『在米広島懸人史』や、旅券の発給記録等の資料に当たり、モリの作家誕生に先立つ森一家の渡米の背景に関する正確な情報固めを行った。こうした探求作業と同時に、カリフォルニア州やユタ州を訪問した際には、関連大学の研究者たちと会見して情報交換を行い、本科学研究費受託研究者の研究内容の意義や方向の妥当性を確認し、知見を深めることに努めた。

研究2年目の平成26年度には、トシオ・モリが作家としてデビューする上で多大な貢献をしたウィリアム・サロイアンとの関係を、さらに詳しく知る必要性を感じて、二人の往復書簡等の資料をスタンフォード大学図書館で調査した。それにより、作家グループや創作サークル等に参加することはせず、ひたすら孤独の中で作家になるという強い信念を持って、静かに燃えながら作家修業を

しているように見えたモリの隠れた苦悩や、当初は 1942 年に予定されていた『カリフォルニア州ヨコハマ町』の出版の遅れに対する怒りや焦り、さらにはサロイアンへの助言の懇願等を知ることができ、モリの作家像を構築していく上で、そうした彼の内面風景の陰影を微細に追究する有益な手がかりを得ることができた。

モリとサロイアンとの関係を考察する上で、後者とカリフォルニア州の日系市民社会との友好な関係にも注意を払うことが肝要であると気づき、その情報を提供してくれる関連資料に当たった。一方、JICA 横浜海外移住資料館図書資料室に所蔵されていることが判明した『トパーズ時報』(のちに『トパーズ新聞』と改名; *Topaz Times*)を探索して、掲載されたモリの 2 篇の短編を発掘し、それら研究者にも存在が知られていなかった作品を考察し、それらが示唆する彼の多彩ぶりを、彼の創作活動の全体図の中に位置づけた。

研究の最終年にあたる平成 27 年度では、過去 2 年間の資料収集と研究の蓄積を踏まえて、モリの死後 20 年目に出版された『終わらざるメッセージ』という選集の中でも異彩を放つ、「ムラタ兄弟」という中編小説の緻密な解読と、作品の背景となっている強制収容所内で起こった暴力事件、すなわち、忠誠登録や徴兵の問題によって引き裂かれた日系市民コミュニティの様々な立場の間で繰り広げられた確執等に関する歴史的な背景資料の考証によって、トパーズ強制収容所体験を形象化したその中編が、モリ文学全体の考察に必須というだけでなく、日系アメリカ文学の中でも認知されるべき重要性を持つ作品であることを広く知らしめるために、同じく日系二世作家ジョン・オカダ (John Okada, 1923-1971) の傑作『ノー・ノー・ボーイ』(*No, No, Boy*, 1957)と比較しながら論文として公刊した。

この作業と並行して、排日運動や強制収容所体験という、主として西海岸在住の 11 万人余りの日系アメリカ人が遭遇した特異な歴史的事象の記憶を風化させないために、アメリカニズムに対抗するジャパニーズ・アメリカニズムという新しい包括的な概念のもとに、日系というエスニックな立場から、アメリカ市民として主体的に生きる姿勢を主張する文学的ヴィジョンを打ち立てる理論的な方策を模索した。

4. 研究成果

トシオ・モリ文学の全体像を構築することを目標とした本科学研究費受託研究の課題を遂行するために、まず、刊行された彼の作品の、遺漏の可能性を除いたほぼ全容を一次資料の原典で把握し、それらのクロノロジカルな配列による一覧表を作成した。これら全作品の読破により、モリ文学の特徴としてまず確認したのは、(1) 世俗的には患者に見える人間のもっている一途さを、尊敬に値する価値あるものとして救い上げるモリの温かい目と心の特異な資質、(2) 欧米流の合理精神からは一見理解しにくいモリ文学の東洋的、神秘的な傾向、(3) スケッチ風の穏やかな作風に隠れた鋭い観察眼とユーモアと批判精神である。さらに本科学研究費受託研究で目指したのは、従来よりモリに付与されてきた穏便な作家という偏ったイメージを修正し、真の作家像を確立することであった。そのために、トパーズ強制収容所を舞台にした死後出版の中編小説「ムラタ兄弟」や、1940 年代前半の時代の暗い雰囲気をつ捉えた数篇の短編を読み解くことによって、既成のモリ文学のイメージ修正という目的は達成されたと思う。

次に、アメリカニズムを民主主義や自由等の合衆国の国家的な価値観を標榜するナショナリズムの健全な現れ方として容認した上で、第二次世界大戦という特異な情勢下に

おいては「敵性外国人」として否定されていたが、多様性を認め合うポストモダニズムの時代の動向に合わせて、日本的なルーツを大切にすエスニシティ重視の対抗的な文学的ヴィジョンとして打ち立て、それをアメリカニズムという全体的な生活様式の正当な一部として主張するジャパニーズ・アメリカニズムを確立する道筋を提唱した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

田中久男 「アメリカ文学におけるリージョナリズム(2)」単著、松柏社『フォークナー』巻なし第17号(日本ウィリアム・フォークナー協会機関誌)

(2015年4月) 148-159頁、査読なし
田中久男 「トシオ・モリの『ムラタ兄弟』とトパーズ収容所での創作活動」単著、『中四国アメリカ文学研究』巻なし51号(2015年6月) 1-12頁、査読あり

田中久男 「常態への回帰」 『本町通り』における不可視の暴力」共著、『抵抗することば 暴力と文学的想像力』藤平育子監修 高尾直知・舌津智之編著、南雲堂(2014年5月) 121-38頁、査読あり

田中久男 「*Sister Carrie* が捉えた新しい時代感覚 バルザックからドライサーへ」単著、『福山大学人間文化学部紀要』第14巻号なし(2014年3月)、29-52頁、査読なし

田中久男 「アメリカ文学におけるリージョナリズム(1)」単著、松柏社『フォークナー』巻なし第16号(日本ウィリアム・フォークナー協会機関誌)(2014年4月) 121-31頁、査読なし

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

田中久男 (TANAKA Hisao)
広島大学・文学研究科・名誉教授
研究者番号: 30039135

(2)研究分担者

(なし)

研究者番号:

(3)連携研究者

(なし)

研究者番号: